

就学前の子どもの施設における事故の特徴 ～「遊び」に着目して

内閣府『特定教育・保育施設等における
事故情報データベース』の分析から

ジャーナリスト

東京都市大学客員教授

(一社)子ども安全計画研究所代表理事

猪熊弘子

1.研究の目的

- 2015年4月、子ども子育て支援新制度スタート
- 内閣府「特定教育・保育施設等における事故情報データベース」(以下、データベースと略)開始。子ども子育て支援新制度の下で運営されている特定教育・保育施設において起きた「治療に30日以上かかったケガ」「意識不明あるいは死亡」について、施設からの報告データを公開。
- 内閣府は「教育・保育施設等における事故報告集」を毎年公表するが、データベースに掲載された事故とは年度の不ズレ。特にケガについては詳細がわかりにくい。
- そこで、特に事故が多いと言われる「雲梯(うんてい)」「すべり台」などの遊具など、子どもの「遊び」に着目し、遊びの中での事故について集計・分析。
- 結果から、就学前の子どもたちの園での活動において安全を守るために必要なことを考察。

2. 先行研究

- 長谷川(1995),大嶺・松田(1997)、高木信良(2006)は幼稚園や保育園内での子どものけがについて、スポーツ振興センターのデータベースを元に調査。
- 荻須(2013)は、「公園」での事故に着目し、事故の状況や、防止策について検証している。
- 海外の先行研究では、オーストリアのEberlら(2008)が、幼稚園(保育所)での347のケガを分析し、「活動のほとんどは室内で行われているにも関わらず、ケガの半分以上は戸外活動で起きている」「男子と女子では3:2で男子のケガの方が多い」「入園して最初の2ヵ月(9~10月)のケガが最も多い」「週の最初の3日間(月~水曜)の、昼食の前後1時間のケガが多い」といった結論を導き出している。

3. 利用したデータ

- 「特定教育・保育施設等における事故情報データベース」として、内閣府が2016年3月31日に初めて公表したデータ。
- 全部で461件
 - そのうち学童保育No348～461＝114件をのぞく、0～5歳の子どもに関する347件の事故について分析。

施設別事故件数

- 認可保育所 (302件)
- 認定こども園 (19件)
 - 幼保連携型 (15件)
 - 保育所型 (3件)
 - 幼稚園型 (3件)
 - 地方裁量型 (1件)
- 幼稚園 (9件)
- 小規模 (2件)... (A型1件、B型1件)
- 認可外保育施設 (11件)
- ファミリーサポート (1件)

年齢別事故件数

- 0歳 5人
- 1歳 24人
- 2歳 32人
- 3歳 50人
- 4歳 84人
- 5歳 102人
- 6歳 50人
- (合計347人)



死亡事故 6件

- 0歳 認可外 ベビーベッドの上
- 2歳 小規模B 病死
- 1歳 幼保連携型認定こども園 窒息死
- 1歳 認可外 入浴中
- 0歳 認可外 不明(仰向けでバスタオルを顔にかけていた)
- 0歳 認可外 うつぶせ(バスタオル)

意識不明 2件

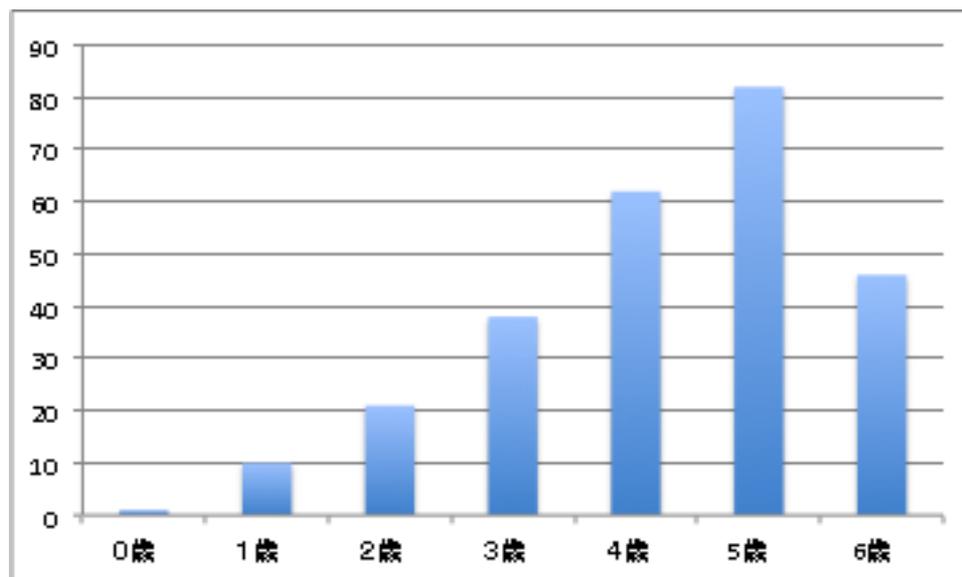
- いずれも回復
- 0歳 認可 離乳食をのどに詰まらせた
- 3歳 認可 おう吐、手足口病との診断

【状態】①骨折が最も多い

- 0歳 1人
- 1歳 10人
- 2歳 21人
- 3歳 38人
- 4歳 62人
- 5歳 82人
- 6歳 46人

(合計 260人

全体の74.9%)



骨折の年齢別件数

【状態】②歯・歯の脱臼

- 1歳 2人
- 2歳 5人
- 3歳 7人
- 4歳 10人
- 5歳 8人
- 6歳 3人

(合計 35人 全体の10%)

【状態】③けいれん

- 1歳 3人
- 2歳 1人
- 3歳 1人
- 4歳 1人
- 5歳 1人
- 6歳 1人

(合計 8人)

【状況】①転倒

- 1歳 2件
 - 2歳 12件
 - 3歳 10件
 - 4歳 23件
 - 5歳 28件
 - 6歳 16件
- 合計 91件

【状況】②転落

- 1歳 1件
- 2歳 0件
- 3歳 3件
- 4歳 4件
- 5歳 5件
- 6歳

合計13件

【場面】自由遊び中

| | |
|------|-----|
| • 2歳 | 1人 |
| • 3歳 | 3人 |
| • 4歳 | 8人 |
| • 5歳 | 13人 |
| • 6歳 | 5人 |
| 合計 | 30人 |

【遊具】①すべり台

- 1歳 2件
- 2歳 3件
- 3歳 8件
- 4歳 8件
- 5歳 10件 →複合理由が3件
- 6歳 5件 →複合理由が2件
- 合計 36件

【遊具】②雲梯(うんてい)

| | |
|------|-----|
| • 3歳 | 1 |
| • 4歳 | 7 |
| • 5歳 | 8 |
| • 6歳 | 3 |
| 合計 | 19件 |

【遊具】③ブランコ

- 3歳 1件
- 4歳 6件
- 5歳 4件
- 6歳 5件(ジャングルジムとの複合理由1)

合計16件

【遊具】④鉄棒

- 2歳 1件
- 3歳 0件
- 4歳 5件
- 5歳 6件
- 6歳 4件

合計16件

【遊具】⑤その他固定遊具

- 1歳 1件 (プレイジム)
- 3歳 3件 シーソー2. タイヤ1
- 4歳 1件 巧技台
- 5歳 4件 スカイジム、鉄の輪のはしご、固定タイヤ。マルチパネル
- 6歳 1件 (平均台→鬼ごっことの複合)

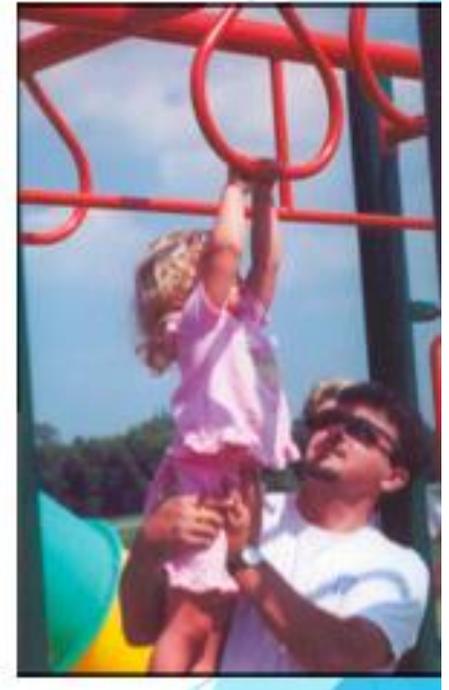
合計10件

アメリカでの遊具の種類によるケガ (playground safety. org)

On what type of equipment are children being injured?



23% -climbers
22% -swings
17% -slides
9% -overhead ladders



CPSC October 29, 2009

Olsen, Heather(2016) National Program for Playground Safety

【遊び】①鬼ごっこ

(ケイドロ、たかおに、こおりおになど)

- 3歳 2件
- 4歳 6件 →複合理由1件
- 5歳 12件 雲梯、滑り台など複合理由3件
- 6歳 10件 滑り台、平均台など複合理由2件
(合計 30件)

【遊び】②追いかけてっこ

- 3歳 1件
- 4歳 2件80, 112,
- 5歳 2件51, 227,
- 6歳 1件

合計6件

【遊び】③運動会の練習

- 4歳 2件
 - 5歳 3件
 - 6歳 2件
- 合計 7件

参考＊講師を呼ぶなどして、「体育」の授業的なものを取り入れている園も少なくない。マラソンや跳び箱などで厳しい練習がある場合も。

【遊び】④跳び箱

- 3歳 1件（自由遊び中）
- 4歳 0件
- 5歳 3件
- 6歳 4件（うち1件は運動会練習中）

- 合計 8件

状況分析

- 「自由遊び中」のケガが多い。
- 「見ていなかった」「制御できなかった」
- 愛着のある担任ではない職員が保育。
- 保育者に対する子ども的人数が多い。
- 職員同士の「共有」がなされていない
- 子どもたちの保育時間が長い(子どもたちも毎日疲れているのではないか?)

- 「遊具」の使用法、使用年齢は正しいか？（公園の遊具は、園の遊具の基準とは違う）
- 保育者が、保育の新しい情報を学び続けることができているのか？（保育士不足）
- 単純な事故が相次いでいる→一人ひとりの子どもの「発達」をきちんと保障することが出来ているのだろうか？（引き続き分析が必要）

課題①保育者の配置

- 保育者1人で保育中に起きている事故
63件 → うち死亡1件
*保育者0名(親子遠足)で死亡1件
- 幼児クラスの配置が手薄
保育者1名で→ 5歳児クラス26名
5歳児クラス23名
4歳児クラス 27名
4・5歳児クラス22名
4歳児クラス 25名.....など

例1) 認可外保育施設3歳児 22名を4名で保育

- 12:20 食事から午睡に移行する時間帯、子ども達の行動は多岐に及ぶ。慣らし保育中の男児のお迎えも重なり、担当の保育士は丁度その対応中。子どもの泣き声が気になり事務室にいた園長が保育室へ行き児童の対応をする。布団の上で男児が痛がって左腕を右手で押さえて泣いていたので本人から話を聞くと、「〇〇が腕を曲げた」と言って慣らし保育中の男児を指さした。また「誰か見た人いる？」との問いかけに男児2名が「〇〇が腕を曲げていた」と言う。左右の腕を比較すると左腕の腫れを見る。骨折または脱臼の疑いがあったので、本児の母親と病院へ連絡し、園長の車で病院へ向かう。
- 12:45 病院に到着。病院の指示通り、受付を後回しに診察室へ向かう。
- 13:20 受診。左腕2か所の骨折と診断。ギブス処置。
- 14:30 本児は両親と帰宅。
- 病状: 上腕の骨折

例2) 幼保連携型認定こども園 2歳児27名を9名(資格者6)で保育

- 2歳児全員で保育室にてDVDを見ていた。本児は臨時保育補助員に抱っこされてDVDを見ながらはしゃいだりしていた時に、滑りながら床(コルク床)に頭を打った。(ゴンという音がした。)臨時保育補助員は本児の頭部の状態を確認したが、異常が見られなかった。その後、普段から仲が良い児童と関わっている中泣き出した。職員が園児の状態を確認。熱はなく、「どこか痛い？」と尋ねたところ頭を指した。その後、生あくびをし、目がうつろになってきたため、担任の職員は異常と判断し、保護者に園に来るよう連絡。保護者からかかりつけ医を確認したが、他の保育士から「頭を打ったようだ」と連絡があったため、救急車を要請。脳内出血の疑いのため、緊急手術を行い、脳内の出血を除去。約1か月後に退院。

例3) 幼保連携型認定こども園 1歳児28名を5名で保育

- ジャングルジム使用中に落下した事故。泣きやまず、左腕を動かさないのので、整形外科を受診。骨折で骨がずれていることがわかり、市立病院に移動し左腕にワイヤー2本を入れる手術をする。翌日に退院、約1週間後に通園再開。後遺症は特に無いが、2か月後も経過観察は続いている。
- ジャングルジムの使用は本園児の年齢では禁止されているが、本園児の使用中は誰もそばにいなかった。

例4) 地方裁量型認定こども園 1～5歳児13名を4名で保育

- 17:50 兄に突き飛ばされ倒れる。左肘を打った様子。泣くが、自分の欲しいものを腕を動かして取るなどして、動かさせていた。冷却の処置をする。
- 18:20 状況報告を受けて把握後、母に連絡するが連絡が取れず。
- 18:50 母の迎え、事情を説明後、病院を受診。
- 翌日 骨折していたことが判明。入院。
- 2日後 手術。
- 4日後 退院。

例5) 認可 2歳児7名を2人で 保育.....するはずが放置？

- 10:10 保育室の横にある園庭ですべり台等遊びを始めた。園庭のフェンスの端に保育士の自転車が置いてあった。フェンスのカギを触って遊んでいたので一度注意に行く。
- 10:30 まだ園児が遊んでいるのもう一度見に行った時、自転車が転倒していた。自転車を起こしていると、女児が頭を押さえて血が出ていた(自転車が倒れ、本児の前頭部に当たった)。本児は泣かず、保育士とも会話を交わし意識もしっかりしていた。出血はすぐに止まったが2cmくらいの傷になっていたのですぐに病院へ連れて行く。自転車が転倒した時保育士はすべり台の傍にいたため気づかなかった。(保育士は2名で1名は滑り台で他児をみており、その他の保育士は園庭と部屋の間で園児を見ていた。)
- 病状: 頭蓋骨骨折

課題②不可解な事故

- 本当に「事故」なのだろうか？



- 「重大事故」でなくても検証が必要では？ 虐待の可能性は？

例6) 認可外保育施設 0歳4人を2人で保育)

- 10:20頃 登園し、その後すぐに午前中の設定保育に参加。
- 11:15 手洗いを済ませ給食を食べる。手洗いの際には**手に異常は見られなかった**。その後ミルクを飲む。
- 12:25頃 お昼寝のため寝かしつけ。 12:35 入眠。体勢は**仰向け**。
- 13:55頃 一度目覚め、再入眠が出来るよう、職員が寝かしつけるが眠れず。 14:15頃 起きて玩具でしばらく遊んでいた。職員は傍についていた。
- 14:45 本児が排便をしたため、おむつ替えを行う。その後、眠そうにしていたので、再度寝かしつけを行うが、**寝たくない**と泣いて怒る。15:15 **職員が本児の左手の親指の腫れに気が付き**、保冷剤で指を冷やすなどの処置を行った。しかし腫れ、赤みが引かず、骨折ではないかと予測。15:30頃 近くの総合病院に連絡。その後保護者にも指の状態を説明し、病院を受診する事の承諾を得て、すぐに病院へ。
- レントゲンを撮ってもらい、その結果、ドアもしくは柵に指を挟んだことにより、**左手の親指第一関節の骨を骨折**している事が分かった。

例7) 認可 1歳(0歳クラス) 8名を4名で保育中に火傷

- 17:50 主任保育士が紙おむつに排泄していることに気付き、A保育士がお尻を洗いに行く。
- 17:55 洗った後、部屋に戻そうとしたが**担任以外の保育士に人見知りして泣いて離れず**、調乳室を片付けるため調乳室と一緒に連れて行き、壁際の床に座らせた。電気ポットの残湯の処分にあたり、お湯を冷ますためにコンセントを抜き蓋を開けた。片付けの最中、A保育士の肘が電気ポットにあたって倒れ、**お湯が本児にかかる**。
- 即座に隣の0歳児保育室(2階)に移動して衣服と紙おむつを脱がせ、隣室の1歳児保育室にいた看護師と主任を呼ぶよう伝え、**看護師は水に濡らしたバスタオルで身体を覆った**。本児を見た主任はお尻を洗いに行った直後だったため、シャワーで火傷したと思いこみ、その旨事務所(1階)にいた園長に報告した。
- 17:59 園長は本児の容体を確認して救急車を要請した。救急隊員より応急処置の指示を仰ぎ、濡らしたバスタオルの上から氷で冷やし、救急車の到着を待った。救急車にはA保育士と看護師が付き添い、病院へ搬送された。

例8) 認可保育所 2歳17名を3名で保育

- 15:40 遊戯室で本児が泣いているのに担任が気付く。原因がわからず、体調、けがなどを確認し、検温もする。
- 16:40 右腕の腫れに担任が気付き、園長に報告し、保護者に連絡後、看護師がつきそい、園の近くの病院を受診、骨折を確認。
- 18:40 救急車で別の病院へ搬送。
- 21:00 手術を受ける。
- 23:00 無事終了し入院する。
- 病状:腕の骨折

例9) 認可 2歳児8名を 無資格者2名で保育(延長時間中)

- 8:10 元気に登園する。
- 日中は、保育士や友達と思いきり身体を動かし機嫌よく遊ぶ。給食、昼寝、午後のおやつ等ふだんと変わらず元気に機嫌よく過ごす。
- 18:00 延長保育時間が始まりおにぎりを食べていたところに、**母親の迎えがあり嬉しさのあまり勢いよく立ち上がった。その際に、右母趾に負担がかかったものと推察される。**
- 病状: 右足親指の骨折

課題③ブラック活動園？

例10) 5歳(年中) 認可 36名を10名で保育

- 9:30 園庭にて、クラス全員(35名)で、鉄棒・平均台・跳び箱・ハードルの練習。
- 10:00 保育室にて、歌の練習。
- 10:30 再度、クラス全員による、園庭での鉄棒・平均台・跳び箱・ハードルを使用した運動を実施した際に、本児がハードルに足をかけ両手をついて転倒し、左大腿部を骨折してしまった。すぐに駆け寄り抱起したが、左足を非常に痛がったため、園舎テラスまで、先生が抱きかかえ移動した。左足が腫れ上がってきたため、園長へ報告をするとともに、救急車を手配し、病院へ搬送した。病院へは保護者・先生・副園長が同行。
- 後日 2週間の入院
- 2週間後 入院期間延長

良い保育と安全の両立

- 保育は、ただ「遊ばせておけばいい」わけではない。きちんとした指導計画を作り、ねらいを定め、それを突然変えるようなことはしない。
- 1人ひとりの子どもの発達をしっかりとみることが必要。
- 新しい保育所保育指針 & 幼稚園教育要領（2018年度から）。子どもの主体性、「非認知能力」が重要と言われるが、そのためにも、子ども一人ひとりに寄り添った保育が必要。
- 子どもには「あそび」こそが「まなび」。だからこそ、安全・安心な保育を！

【参考文献】

- Eberl, Robert, et al (2009) “Analysis of 347 kindergarten-related injuries” *The European Journal of Pediatrics*, 168 pp.163–166
- 長谷川憲一(1995)「幼児の保育中の「ケガ」に関する調査と報告」*静岡県立大学短期大学部研究紀要第9号*, pp.273-282
- 荻須隆雄(2013)「保育環境としての地域の遊び場における事故防止について」『*保育科学研究*』第4巻, pp.95-102
- Olsen, Heather(2016)”Playground Safety---Having Fun and Staying Safe” April 27th
- 大嶺智子、松田博雄(1997)「保育園児の保育時間内事故発生の実態とその対応に関する研究」『*杏林医学会雑誌*』28巻4号, pp.562-563
- 高木信良(2006)「幼稚園・保育所(園)における負傷発生について」*関西女子短期大学紀要第16号*, pp.9-20